

れいわ ねんど だい かい たぶん かきょうせいすいしんいいんかい ぎじろく
令和5年度 第3回 多文化共生推進委員会 (議事録)

1. 日時 令和5年(2023年) 5月30日 18:30~20:00
2. 場所 甲賀市役所 別館会議室101
3. 内容
 - ・ 議事(1) 第1回委員会の議事録の確認について
 - (2) (仮称) 多文化共生センターについて
 - ・ その他
4. 出席委員 稲垣 アレサンドラ 委員、上原 ジャンカルロ 委員、
大河原 佳子 委員、グエン ティ オアン 委員、則安 宏 委員、
浜田 麻里 委員、原田 千晶 委員、山下 由行 委員
(五十音順)
5. 議事内容 別紙のとおり

べっし ぎ じ ないよう
《別紙：議事内容》

1. 開会

(※割愛)

2. 議事

(1) 第1回委員会の議事録の確認について

(※割愛)

(2) (仮称) 多文化共生センターについて

質問者	質問・意見	事務局回答
はま だいいん ちょう 浜田委員長	この5月・6月で多文化共生センターの機能や役割について整理していく。委員会としては、「今、どのような課題があるか」「多文化共生センターに何を期待するか」という意見をまとめて市に伝えたい。 センターの重点的な事業としては、一元的相談窓口、日本語ゼロ初級者のための日本語教室、子どもの学習支援の3点が挙げられているが、この点についてどう思うか。他にも取り組むべきことがあれば教えてほしい。 まずは、子どもの学習支援について、実際に支援されている山下委員と稲垣委員より、白ごろの活動の中で感じていることを発言いただきたい。	—
やま したいいん 山下委員	子どもの学習支援については、毎週土曜日の14時から16時、まる一むで開催している。平均6人～8人の子どもと、6人	—

	ていど ぼらんてい あす たっ ぷ さんか 程度のボランティアスタッフが参加している。 う け い れ る こ ども の にんずう 人数をさらに増やしたいが、ボランティアスタッフが不足していることが課題である。現在は無償のボランティアだが、今後は交通費の支給などの新たな取り組みも検討しなければならない。 がくしゅうかい さんか こ たち にちじょう 学習会に参加している子ども達は日常 かいわ 会話はほぼできているが、ほごしゃ 保護者のなかには にほんご はな かた こ 子どものきょういく 日本語が話せない方もいる。子どもの教育 ふあん かん ほごしゃ きたい こた に不安を感じている保護者の期待にも応えて いきたい。 か こ まった にほんご はな こ 過去には全く日本語が話せない子どもが さんか 参加していたこともあり、日本語を指導でき るボランティアスタッフがいつもいるとは限 らず、たいおう ごま 対応に困ったこともあった。	
いながきいん 稲垣委員	かわせみ きょうしつ 教室では、がつまつ ていいん 3月末まで定員であ る 10 人～11 人の子どもを受け入れてい た。つうがく ほごしゃ そうげい ひつよう 通学には保護者の送迎が必要だが、送迎 することができなくなり、かよ 通えなくなった じどう 児童もいる。 はんとしつうきゅう こ つうじょう 半年通級していた子ども(※通常は3か げつ)もいたが、じょじょ ざいせきこう かよ ひ ぶ 徐々に在籍校に通う日を増や していくことで、こんげつ 今月ようやくかわせみ きょうしつ そつぎょう 教室を卒業することができた。 くに ほごしゃ きょういく りかい さ 国によって保護者の教育への理解に差が あり、ささい やす こ 些細なことで休む子どももいる。	—

	5月からは全 く日本語がわからない子どもも入室している。かわせみ教室に来ることで喜んでいますが、言葉がわからなくても在籍校に戻って友達に会いたいという気持ちもある。 不就学になっていた中学生も参加するようになった。引きこもり状態だったのが、自分で電車とバスを使って来ている。かわせみ教室の友達に会いたいようである。 課題としては、1人ひとりの日本語の習得ペースが違うため、個別対応が難しいことにある。	
はまだいいんちよう 浜田委員長	家庭の状況、文化の違い、来日の経緯や日本での立場等によって、抱える課題は様々である。1人ひとりに寄り添った多文化共生の施策が求められていると再認識した。	—
うえはらいん 上原委員	ハード面については、日本語図書の寄付を募ってはどうか。また、一目で多文化共生センターとわかるような看板も設置してほしい。 ソフト面については、専門的な知識を持った相談員が必要ではないか。例えば、結婚や出産のとき、外国人市民は市役所だけでなく、領事館や入管の手続きなども必要となる。行政書士会や弁護士会と協定を結ぶなど、多様な相談に対応できる体制を整えていただきたい、	—

	また、相談員の行動範囲も決めていく必要がある。窓口対応のみか、あるいは同行支援も可能なのか。相談内容に対応する紹介先に通訳がない場合は、同行も必要となるのではないか。	
原田委員	子どもの学習支援については、支援者の不足と人材育成が課題と感じた。開設までの限られた時間のなかで、現状の課題にどのように対応していくのか。すべてに対応することはできないが、それぞれの抱えている課題を可視化のうえ、優先順位をつけて取り組むべきではないか。	—
グエン委員	外国人市民の子どもの発達障害などに対応できる施設はあるか。居場所づくりではなく、専門的な支援をしてくれる施設はないか。	—
浜田委員長	障害者の支援システムはあるが、外国人だからという理由で十分な支援が受けられないなどの状況があるならば教えていただきたい。市だけではなく、支援機関と連携して取り組む必要がある。	—
則安委員	子どもの学習支援について、ボランティアだけでは限界があるのではないか。 外国人相談について、オーバーステイなど解決が難しい相談も受けていくのか。また、窓口があっても自分から相談できない人もい	原則として、どのような内容の相談でも受け入れるようにしなければならない。 外国人市民がひとりで悩むことなく、相談できる施設としたい。オーバーステイなどの課題は、市役所などの行政機関に相談した場合は通報義務が発生する。他機関が

	るので、外国人コミュニティを訪問するな ど、アウトリーチも検討してほしい。	運営する多文化共生センターであれば、 相談者に不利益が起ころことはない。
おおかわらいいん 大河原委員	多文化共生センターの機能、役割、 運営者については、どこまで市民、議会など の理解が得られているのか。多くの市民 (近隣住民)、団体などを交えて、意見 交換できる機会も必要ではないか。	多文化共生センターの整備構想や、 機能、役割だけでなく、甲賀市国際交流 協会の主体的な関与については、議会等 にも説明しており、一定のご理解をいただ いているものと考えている。
はまだいいんちよう 浜田委員長	多様な市民、団体が参加できる タウンミーティングのような機会を設けては どうか。	—
おおかわらいいん 大河原委員	公民館や少年センターなど、同敷地内に 入る団体や、地域住民の声を伺ったうえ で、国際交流協会の活動についてもご理解 いただき、多くの皆さんに賛同いただけ る形にしたい。	タウンミーティングなど、多様な意見を 伺える機会については、市と国際交流 協会でも検討させていただきたい。
やましたいいん 山下委員	対面による通訳者を配置し、多文化共生 センターでできることを多言語で発信してい くべき。	—
ほらだいいん 原田委員	国としても一元的相談窓口の開設を推進し ており、交付金も出している。外国人在留 支援センター(FRESC)や先進地の事例を 参考にしながら、市の現状に合った相談 窓口を検討してほしい。外国人市民がどのよ うな課題を持っているかについては、開設ま でに情報収集が必要ではないか。相談 方法、相談のルール、他機関との連携、 情報の蓄積、広報、人材育成についても 検討するべきである。情報の蓄積について	頻繁に尋ねられる質問(FAQ)や ノウハウなど情報の蓄積が大切であると 認識している。 また、センター自らが相談内容の全てを 解決することは難しいと考えており、専 門家や適切な相談先に「つなぐ」ととも に、伴走支援が重要と考えている。

	は「共生社会実現に向けたロードマップ」 等の資料も参考にしていきたい。	
上原委員	相談体制については、外国人対応に慣れている機関と協定を結ぶことも視野に入れているかどうか。 子どもの学習支援について、他市の日本語初期指導教室では、アセスメントができる人材が不足していることで、適切な指導計画が立てられないことが課題となっている。 また、特別支援教室における発達支援の専門家も不足しており、児童の間に「特別支援教室は遊ぶところ」との誤った認識が広まっている。外国人児童生徒の場合は、言葉による課題か、発達による課題なのかの見極めが難しい。ブラジルの場合は領事館から臨床心理士が派遣され、適切な診断のもと、計画が立てられている。	—
浜田委員長	アセスメントのツールはあるが、活用できる人材がいない。甲賀市の場合は人材の確保が大きな課題である。	—
則安委員	日本人の多文化理解も高めなければならぬ。外国人コミュニティに協力していただき、イベント等で多様な文化を紹介する機会も必要である。センター開設時にあって、オープニングイベントなどを開催し、親しみを感じていただくのもよいのではないかな。	オープニングイベントについては、施設を構成する他団体とも連携しながら、検討したい。

おおかわらいいん 大河原委員	たぶんかきょうせいせんたーもくてき 多文化共生センターの目的について、 がいこくじんしみん 外国人市民だけのためではなく、にほんじんしみん 日本人市民 く の暮らしやちいき 地域をささ 支えることにもつながるこ とをめいき 明記していただきたい。	—
---------------------------	--	----------

3. その他^た

(※^{かつあい}割愛)

4. 閉会^{へいかい}

(※^{かつあい}割愛)